

2026年5月1日

韓国・4月輸出は旺盛な AI 関連投資が後押し (Asia Weekly)

～中東情勢の緊迫化の影響が懸念されたが、AI 関連投資の旺盛さが輸出全体を押し上げる～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/27(月)	(シンガポール)3月鉱工業生産(前年比)	+10.1%	+7.5%	+3.3%
4/28(火)	(インド)3月鉱工業生産(前年比)	+4.1%	+3.7%	+5.1%
4/29(水)	(オーストラリア)1-3月消費者物価(前年比)	+4.1%	+4.2%	+3.6%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.00%	1.00%	1.00%
4/30(木)	(韓国)3月鉱工業生産(前年比)	+3.6%	+3.8%	▲2.3%
	(中国)3月製造業 PMI	50.3	50.1	50.4
	3月非製造業 PMI	49.4	--	50.1
	(台湾)1-3月実質 GDP(前年比・速報値)	+13.69%	+11.30%	+12.65%
5/1(金)	(韓国)4月輸出(前年比)	+48.0%	+45.3%	+49.2%
	4月輸入(前年比)	+16.7%	+14.5%	+13.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

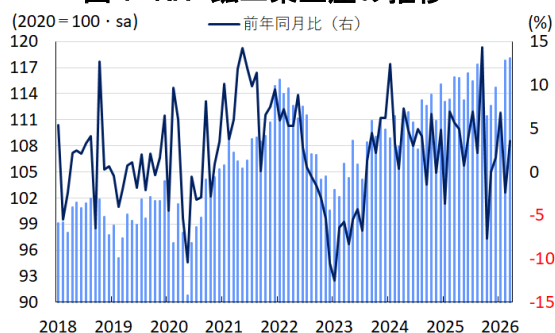
[韓国]～中東情勢の緊迫化の影響が懸念されるも、世界的な AI 関連需要の旺盛さが輸出を押し上げる～

30日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+3.6%となり、前月(同▲2.3%)から2ヶ月ぶりのプラスに転じている。前月比も+0.25%と前月(同+5.27%)から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移しており、生産は持ち直しの動きを強めている。中東情勢の緊迫化を受けたエネルギー資源のひっ迫懸念を反映して、鉱業部門の生産は2ヶ月連続で大幅に拡大している。また、外需の底堅さを反映して製造業の生産も拡大で推移しており、主力の輸出財である半導体の生産は下振れしているものの、電気機械関連のほか、自動車など輸送用機械関連、縫製品関連、木製品関連、食料品関連など幅広い分野で生産に底堅い動きがみられる。

1日に発表された4月の輸出額は前年同月比+48.0%となり、前月(同+49.2%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は6ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど持ち直しの動きが続いている。中東情勢の緊迫化による悪影響が懸念されたものの、世界的なAI(人工知能)関連投資の旺盛な動きを反映して半導体の輸出が大幅に拡大したほか、コンピュータ関連の輸出も急拡大するとともに、原油高も影響して石油製品関連輸出も大きく押し上げられた。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが大きく拡大す

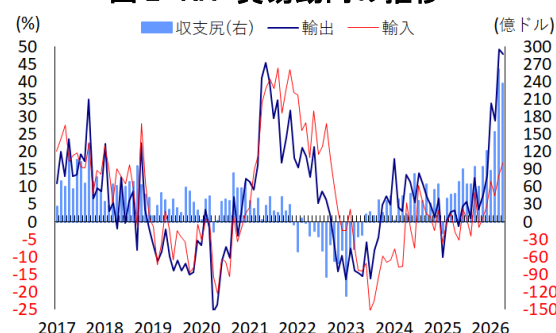
るとともに、米国向けも旺盛な推移をみせている。その一方で輸入額は前年同月比+16.7%となり、前月（同+13.2%）から伸びが加速している。前月比も5ヶ月連続で拡大していると試算されるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に持ち直しの動きが続いている。原油など商品市況の上昇が関連する輸入額を押し上げるとともに、輸出の堅調さを反映して素材や部材など原材料関連の輸入も堅調に推移している。その結果、貿易収支は+237.71億ドルと前月（+262.39億ドル）から黒字幅は縮小している。

図1 KR 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一ライフ資産運用経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移

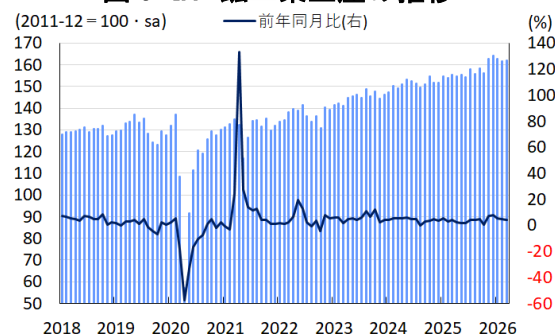


(出所)CEICより第一ライフ資産運用経済研究所作成

[インド]～中東情勢の緊迫化を受けた工場操業への懸念を反映して、製造業の生産は幅広く下振れ～

28日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+4.1%となり、前月（同+5.1%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、頭打ちの続いていた流れに変化の兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向が続くなど力強さを欠いている。中東情勢の緊迫化により原油などエネルギー資源のひっ迫懸念が高まったことを受けて、鉱業部門の生産は拡大に転じているものの、製造業の生産は3ヶ月連続の減少で推移するなど対照的に弱含む動きをみせている。製造業のうち、資本財関連の生産には底堅い動きがみられるものの、エネルギーのひっ迫懸念が工場の操業に悪影響を与える動きが広がるなか、中間財や消費財関連の生産は総じて下振れしている。また、年度末であるにもかかわらず、公共投資の進捗が低迷したことでインフラ関連の生産にも下押し圧力がかかるなど、幅広い分野で生産活動が弱含んでいる様子が見えてくる。

図3 IN 鉱工業生産の推移

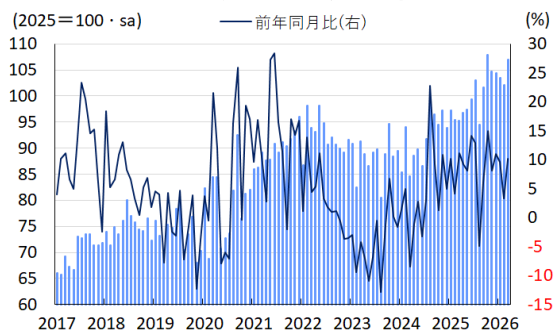


(出所)CEICより第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～中東情勢の緊迫化は石油化学関連の生産を下押しも、幅広い分野で生産拡大が続く～

27日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+10.1%となり、前月(同+3.3%)から伸びが加速している。前月比も+4.66%と前月(同▲1.20%)から5ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど持ち直しの動きがみられる。同国では、バイオ医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向がある。こうしたなか、3月のバイオ医薬品関連の生産は前月比+14.42%と前月(同▲5.03%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、生産全体を押し上げている。なお、バイオ医薬品関連を除いたベースでも、3月は前月比+3.50%と前月(同▲2.90%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、幅広い分野で生産が拡大している。中東情勢の緊迫化による原油供給の懸念を反映して、主力の輸出財である石油化学製品関連の生産が大きく下振れするほか、電気機器関連の生産も力強さを欠く推移をみせている。その一方、半導体をはじめとする電子部品関連や機械製品関連のほか、金属関連、食料品や紙製品、木製品関連など幅広い分野で生産拡大が続いている。

図4 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上